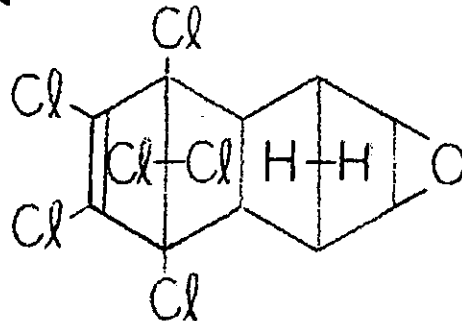


## 分 解 度 試 験 報 告 書

1. 試 料 名    ディルドリン  
              ( 試料 No K-637 )

分 子 式     $C_{12}H_8Cl_6O$

構 造 式



同 定    赤外分光光度計 ( 付図-4 参照 )

性 状    外 観    淡黄色結晶

融 点    176 ~ 177 °C

純 度    85 % ( 試薬一級使用 )

溶解性    対水—10 ppm 以上

          対クロロホルム, ベンゼンに 1,000 ppm

以上可溶

2. 試 験 期 間    昭和55年7月23日 ~ 昭和55年9月3日

3. 試験方法及び条件

環保業第 5 号 }  
薬 発 第 615 号 } 微生物等による化学物質の分解度試験による  
49 基局第 392 号 }

### 3.1 試験条件

#### (a) 生分解試験条件

- (1) 微生物源 : 標準活性汚泥 30 ppm
- (2) 供試物質濃度 : 100 ppm
- (3) 試験期間 : 17日間

#### (b) 試験装置

閉鎖系酸素消費量測定装置      標準型

#### (c) 試料の採取

供試物質は固体のため、天秤で30.0 mg 精秤し、各培養瓶に添加した。

#### (d) BOD測定装置へのセット状況

	状 況	pH
仕込時	試料は溶けずに底に沈んだ	—
途 中	同 上	—
終了時	同 上	—

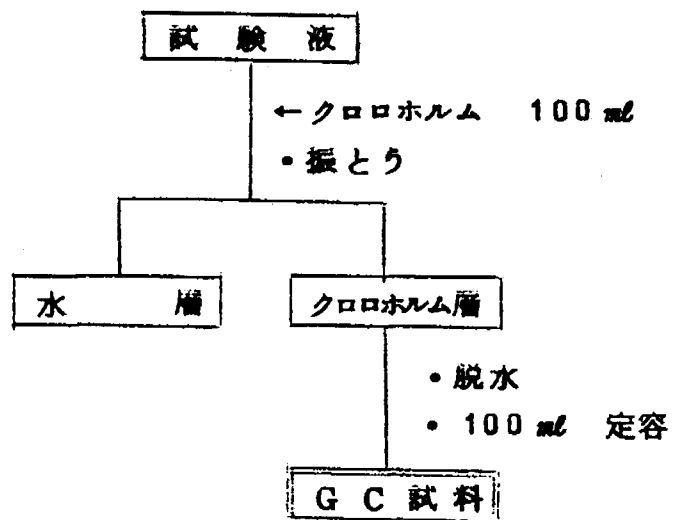
### 3.2 直接定量分析

#### (a) 使用分析機器及び条件

##### ガスクロマトグラフ

型 式	日立 163
検 出 器	F I D
カ ラ ム	3 mm $\phi$ $\times$ 1 m ステンレス
固 定 相	
液 相	10% SE-30
担 体	クロモソルブW
カラム温度	240 $^{\circ}$ C
キャリアガス	N <sub>2</sub>

#### (b) 分析試料の前処理



#### 4. 試験結果

	分解度(%)	付 図	付 表
酸素消費量による結果	0	1	
G C による結果	2	2	1

7日目のアニリンの分解度 60%

以 上